

新しさと古さが交錯する香港

素晴らしい魅力を肌で感じる



▲ アバディーン（香港）の水上レストラン前でパチリ

婦人の翼

社会教育事業の一環として、平成2年度から町内の婦人を香港等に派遣し、文化・歴史・生活等を体験して頂く婦人の翼が10月14日から17日までの3泊4日で行われました。50人の参加者は、異國の地の魅力を肌で感じてきました。

和氣藹々の研修で意志疎通

団長 布施 静江（宝米）

前日まで降り続いてた雨も止み、心配した台風も進路を変え、香港は晴天。正に絶好の旅行日和。

七年前に行った時に、林立する高層ビルの多さに目を見張ったものだが、今回は以前の比ではなく、再び驚いた。山や海の開発、埋立て、立体化された迷路。幾度通っても海中トンネルと九龍駅だけしか分からなかった。

香港は全くの自由社会であるから、貧富の差が甚しい。以前より減ったということだが、溝海に浮かぶ水上生活者の船がいやに目につく。彼等は一生に三度しか風呂に入らず、老廃物は海にたれ流し。銭は信用せず、稼いだ銭は宝石に代えて握っているという。陸上の貧者もひどい。まともな住み家もない者と、大金持ちとが鼻突き合わして住んでいる様は、正に香

港ならではの風景だ。

胡文虎は、万金油で巨額の富を築いたとされているが、実は阿片と米ドルの偽金作りで儲けたという説明を聞いて、成る程と思った。

市内見学は、店屋の百軒覗きだ。自由経済都市で課



▲幅広い層の方々と研修ができて布施さん
得るものが大でした。

の眺めは、さすがにきれいであった。一面の霧の中から七色に光る様は、まるでオーストラリアオパールそのものであった。

二日目に、古くから海外貿易の玄関口として開け、また、阿片戦争や辛亥革命の舞台となった広州へ。香港と違って街路樹も多く、辺りが広いので一息つける。国土が広いとはいえ十億余

税されないから、品物は確かに安い。然し、欲しい物は金目が張るし、手頃な物は間に合っている。大した買物は無し。飽きて不平を言う者も居た。でも、これが商業都市香港そのものなのである。

香港で見逃せないのは夜景。百万ドルの夜景といわれるビクトリアピークから

だと思う。現に、中国史上で餓死者を出さないのは人民政権が初めてだとのこと。「まだ、革命成らず」と遺言して此の世を去ったという孫文は、帝制時代の奴隷状態からの解放と、餓死者の出ない世の中を願ったのではなからうか。

復路は、九龍鉄道で帰るわけだが、予定列車がとれず遅れた。そのお詫びだといって、一輪ざしとも徳利ともつかぬ二組の小さな焼物を銘々に呉れた。中国旅行には予定変更はつきものであるから、物を貰うなど、変な気がした。開かれた広州だからか？

最後に、この研修事業に参加し、町内の幅広い層の方々と共に旅ができて、香港広州見たよりも得るものが大であった。事故も病気もいざこざも無く和氣藹々。意志疎通もできて、今後に期待できるものがある事を感じた。